



日産建 第 76 / 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

日高町長 中 善夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり提出致します。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

和歌山県 日高町

「道路特定財源に関する基本方針」に基づき、道路特定財源を廃止し、平成21年度から一般財源化し、生活者の目線でその使い方を見直すこととなっています。

当町は、半島地域に位置し、道路整備が著しく立ち遅れています。不利な条件で暮らす私たちにとって、道路は、社会資本生活や活力ある経済・社会活動を支える最も基礎的な利便、安心・安全な施設であり、地域の活性化にとって不可欠なものです。

これまで、私たち地方の住民は、都市部の住民に比べ、数倍の揮発油税を負担してきたが、道路整備は需要の大きい都市部から優先的に行われてきたため、本町にとっても、未改良部分の道路が数多くあります。

これから本格的に道路整備を進めなければならない状況の中で、道路特定財源の一般財源化により、遅れてきた地方の道路整備がこれ以上滞るようなことは、地方の活性化に支障をきたすことになります。

よって、道路特定財源の一般財源化においても、地方に必要な道路整備が、着実に進められるよう財源確保を強く要望します。

○現状

本町の生活・産業・観光・交流の促進を支える主要幹線道路は、国道42号と県道6路線で形成されているが、未改良区間が多く残されている。

海岸道路は、多くの漁港と隣接しており、県内はもとより京阪神方面への水産物流に不可欠であり、産湯海水浴場、温泉施設、日ノ御崎等々、日高地方を代表する観光資源を支える最も重要な道路であるが、未改良部分が数多く残っている。

広川南インター関連道路である県道は、有田圏域と御坊・日高圏域をつなぐ広域幹線道路であり、湯浅御坊道路や国道42号へのアクセス道路として重要な路線であるにもかかわらず、未改良部分が数多く残っている。

○課題

海岸道路は、狹隘で湾曲し危険箇所が数多く残されている。

以前の集中豪雨の際には、道路が冠水し、一部の地域において、避難することも、立ち入ることも出来ない陸の孤島となり、住民の生命を脅かした経緯があり、道路改良が急務とされているにもかかわらず、道路行政全般的な予算の問題、人口が少ないからという理由で、優先順位が下位であることから、路線の改良は遅々として進んでいない。

広川南インターが完成し、車両数が増加しているにもかかわらず、地域の生活道路であるこの関連道路は、未だ幅員が狹隘で車両の対向すら困難である状況であり、通勤通学に大きく支障をきたしており、非常に危険な状態であり、その解消が急務である。

豊かな自然環境の保全を基本に、既存の土地利用を尊重し、周辺環境との調和を図りつつ、風水害や地震などの自然災害に強い安全・安心なまちづくりに向け、地域特性や土地の有限性・公共性などを踏まえ、総合的・計画的な土地利用を推進する。

将来の本町のまちづくりの骨格は、国道42号及びJR紀勢本線の沿線を南北の軸とし、県道比井紀伊内原停車場線及び、町道萩原荊木線などの沿線を東西の軸として設定します。また、海岸線の県道御坊由良線を中心に広域的な観光ネットワークとなる軸を設定します。

南北軸は、本町のまちづくりの中心的な役割を担い、生活や、産業経済に関わるさまざまな諸機能の集積や機能の強化を促進します。

東西軸は、町内各地へのアクセス、他市町村の人々を本町へ導き、交流・ふれあいの機能などの充実を促進します。

海岸線は、観光やレクリエーション等、豊かな自然環境を楽しめるような機能を促進します。

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

和歌山県 日高町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
災害に強い道路	道路の冠水、崩落等による集落の孤立を防ぐ。	避難や救助を可能にし、住民の人命と財産を守る。	
安全性の向上	幅員確保、歩道設置、カーブ改修	交通事故の抑止	
産業の活性化	農水産基点から高速道路までの道路整備 海岸線道路整備	運搬コストの削減、運搬時間の削減による産業活性化。都市部への特産物のアピール。 海水浴場、温泉施設等への観光客誘致。都市との交流の促進。	